

第2回環境拠点施設検討部会（14：00～15：40）

議事要旨

◇開 会

◇部会長の挨拶（手塚部会長）

◇議 事

議題1「ワークショップの結果報告について」（事務局説明）

議題2「基本構想骨子（案）」（事務局説明）

【質疑・意見】

（保津川遊船企業組合）

この施設は、例えば「環境センター」のようなイメージで、基本的には公共施設として、維持管理は亀岡市が行うということによいか？

（亀岡市）

公共施設として整備します。

※ 以下、「基本構想骨子（案）」の項目に沿って質疑を行いました。

1 集う人々

（NPO法人プロジェクト保津川）

「学生」というと、大学生を示すように感じられる。

ワークショップの意見を見ると、子ども、高校生、小さなお子さん、子育て世代という言葉も見られるので、「若い世代を中心に」などの表現でよいのでは？また、「ビジネスマン」は、「ビジネスパーソン」で。

（NPO法人亀岡子育てネットワーク）

「若い世代」と言われると、私たちの世代は行きにくいので、「誰でも」というように表現していただきたい。

（部会長）

この表現については、今までの市役所を利用するような中高年の世代ではなく、それよりも若い世代の方という意味だと解釈している。

（NPO法人プロジェクト保津川）

「若い世代も気軽に」とか、決して中高年がダメだというわけではない。

（亀岡市）

「誰でも自由に」利用できるというのが大前提で考えている。

(NPO法人プロジェクト保津川)

「今まで公共施設に立ち寄り難かった若い世代」とか、なぜ若い世代なのか書いたらよいのでは？

(京都信用金庫)

施設の開館時間、休館日はどのように想定されているのかが問題になると思う。

例えば、学生であれば平日は学校があるので、利用するのであれば土日になる。

また、ビジネスパーソンであれば、駅北にホテルが2棟も建つことから、朝食利用が考えられる。

観光客も併せて取り込める。そうすると、朝早くから開いている必要がある。時間帯によっても、来られる方が変わってくる。

午前中は、朝食利用と子育て中のお母さんが来る時間（幼稚園に送った後）。

駅北にはランチをするようなカフェがないことから、昼間はランチの需要がある。

スターバックスの成功を見れば、人流はできることが分かったので、いいものが建てば必ず成功すると思う。

その他には、観光客の一息つく場所や観光ルートに盛り込めればいい。

HOZUBAG など魅力的な商品を手にとってもらえれば、必ず需要喚起につながるはず。

夕方になれば、子どもたち（学生）の利用時間になる。

夜は、ウッドデッキでキャンプや屋上で焚き火を囲むようないろりがあってもいいと思う。

川の借景はすばらしいので、それを活かさない手はないと思う。

(亀岡市)

環境にあまり関心がない、環境に敏感でない方をこの施設に引き込む、ターゲットにして、そういう方々が気楽に立ち寄れる施設であつてもいいと感じた。

(部会長)

環境に関心がない方でも利用していただいて、ランニングコストを回収する部分も必要だと思う。

1日の中でどの時間帯にどのような人が利用するのかシミュレーションしていただいて、計画していただきたい。

(保津川の世界遺産登録をめざす会)

環境に関心を持っていただく、環境に縛ってしまうと人が寄り付かなくなるので、いろんな人が集まれる施設にみんなで盛り上げていければいいと思う。

(部会長)

集う人々に「環境」の活動を展開する市民や団体とあるが、施設で展示を行う人なのか、その施設をキーステーションに活動する人なのか？

(亀岡市)

ワークショップでは展示スペースに加えて、それを紹介する人がいる、活動する人が活躍する場にしたとの声があった。

今は、部会長が仰られた両面をイメージしている。

(NPO法人プロジェクト保津川)

「環境」の解釈は、施設を利用される、発表（表現）や活動される人に委ねては？

今までは、この施設のようなサイズ感の発表の場がなかった。

そういう使い方をしてもらえたら。

2 求める機能

【飲食エリア】

(亀岡市)

公共施設として整備する以上、制約がある。

具体的には、飲食店のようなキッチンや厨房機器の設置や宿泊する機能が難しい。

(部会長)

飲食スペースにおけるお茶や缶ビールの提供も難しいのか？

(亀岡市)

給湯室であれば、整備できると考えている。

(部会長)

町家を改造したような簡易なカフェなら可能なイメージか？

(亀岡市)

イメージとしては、買ってきたものは中で飲食できる程度を考えている。

(NPO法人プロジェクト保津川)

キッチンカーではなく、ポップアップカフェ、イベント出店のような簡易なテントのカフェや学園祭の模擬店のような、気軽に出店できる、お店に挑戦できるイメージで書いてはどうか？

事務局としては、「場所は貸せるけど、調理設備は自分で用意してください」というイメージか？

(亀岡市)

そう考えている。

【コミュニケーションエリア】

(部会長)

コミュニケーションエリアについて、具体的なイメージは？

(亀岡市)

ワークキングスペースのような自由なスペース、中高生がたまる、展示を使って市外からの来訪者が関われるようなスペースを大まかにイメージしている。

(部会長)

ワークショップ参加の方は、飲食とコミュニケーションをイメージされたのは、市役所の会議室ではなく、景色がいいデッキで、例えばビールを飲みながら皆で環境について語り合えるような場をイメージしたのではないかと思う。

(亀岡市)

自由に来て、自由に使えるスペースを設ければよいと考えている。

イメージとしては、市役所B1Fの「開かれたアトリエ」のようなスペースを考えている。

拠点施設は、市役所と立地が異なり、駅前で亀岡市の玄関口でもあり開かれたアトリエとは利用者は異なると考えている。

(かめおか霧の芸術祭実行委員会)

開かれたアトリエは、誰もが自由に出入りしてコミュニケーションがとれる場所として、幅広い年代の方に打合せ等にご利用いただいている。

事務局としては、ただの箱では新たな出会いは生まれないと思っており、展示や図書などを使って人が集い、ワークショップができるように、コミュニケーションが取れる仕掛けづくりが必要だと考えている。

基本構想(案)の表現で気になったのが、「ワークショップに参加された多くの皆様の想い」とあるが、「より広い人々の想い」を実現するためとした方がよいと感じた。

【物販エリア】

(湯の花温泉観光旅館協同組合)

亀岡市には、環境の運動(取組)を発信すればいいと思う。

アップサイクル製品のHOZUBAGや市と協定を結ぶブリタのボトルのような水にまつわる製品など、市が先進的に取り組んでいることの展示・即売。

また、市内では京野菜を生産しているので、野菜や加工品(漬物)を販売すればいいと思う。

(部会長)

物販エリアへの出店、商品を置いていただける可能性はあるということか？

(湯の花温泉観光旅館協同組合)

あると思う。

【インフォメーションエリア】

(部会長)

事務局のイメージは？

(亀岡市)

アユモドキの水槽をはじめとする自然環境の展示、漂着ごみの現状の展示など、ストーリー性のある展示があればいいと考えている。

市外から環境学習に訪れる学生（学校単位）も多いことから、亀岡市の取組を学べるスペースをイメージしている。

(保津川遊船企業組合)

こういう施設には情報発信が必要で、どういう施設であるかを内外に発信にすることが重要。

展示だけでなく IT を使った情報発信、来訪者が Youtube や SNS に使って発信できるスタジオ機能があればいいと思う。

展示をして多くの人を入れるよりは、施設のキャパシティー（収容人数）にあった構想作りが大事だと思う。

(部会長)

そこに人を集めるだけではなく、そこが発信の拠点にもなることが重要だと？

(保津川遊船企業組合)

一番大事だと思う。

(NPO法人亀岡人と自然のネットワーク)

同法人では、ここ最近では 10 年以上アユモドキの調査を行っている。アユモドキの展示は、喜ばしいことだと思う。

保津川という視点で見ると、野鳥を長年観察されている方に何うと百数十種類が飛来するとのこと。

また、植物も淡水魚も 53 種類が生息しており、全国でも稀な自然環境だと思う。

インフォメーションには、自然の紹介と、ネイチャーガイドできるように様々な団体が入れるスペースがあればいいと思う。

豊かな生き物と環境（廃棄物）をつなぐ展示（パネル）だけでなく、周辺をガイドしながら説明できれば、その情報はより広がっていくと思う。

(部会長)

起点となって外に広がっていくイメージになるが、事務局の意見は？

(亀岡市)

情報発信の起点となることは、非常に面白いと思う。

(部会長)

ただの箱という話につながるが、施設にいる人が様々なネットワーク起点となって、仕掛けていくことができれば、非常に豊かな場所になると思う。

3 必要な設備

(保津川遊船企業組合)

Youtube や SNS に使ったの発信には、WiFi など通信環境があればよいので、ちょっとしたスペースがあればよい。

バリアフリー、ユニバーサルデザインは絶対大事なので、これを確実にやって欲しい。

また、亀岡市が進めているエネルギー政策、電力の地産地消を体現する施設とすれば印象が付きやすいと思う。

「環境」の施設であるという柱となる設備をしっかり整備して、そこから他にも色々なことができるように施設を考えていけばよいと思う。

(保津川遊船企業組合)

太陽光発電だけではなく、川の周辺であるので、水力発電（小水力発電）も検討できるなら候補かと思う。

電気に色はついていないので、そこで発電することにこだわるのではなく、亀岡市内で発電した電気を使っていることを市民に説明、発信できればよいと思う。

(部会長)

インフラの面でも市民への広報という視点で整備してもらえればよいと思う。

基本的には、亀岡市の施策に合うように整備していただき、「集う人々」や「求める機能」に必要なものを追加していつてもらいたい。

全てが本格的なものを求めるのではなく、あるものを組み合わせて（ブリコラージュ）、市民にとってよいものにしていく努力が必要だと思う。

4 建物のコンセプト

(部会長)

そもそも、既存の建物の改修か、それとも建替えか？

(亀岡市)

つい先日、現況調査の結果報告があり、既存の建物は改修で活用できることが分かったことから、基本的には改修で進める予定。

(保津川遊船企業組合)

既存建物を見る限り大幅な改修（内装、外装もほぼ全て）は必要と思われるので、その上で、新たに各種施設を整備するというところでよいか？

(亀岡市)

そのとおりで、大規模な改修を予定している。

耐震性を担保するため、耐震補強は絶対行う。

(NPO法人プロジェクト保津川)

拠点施設周辺には、保津川（風景）を見える施設がなく、貴重な施設。

その眺望を活かして欲しい。

川が見える、霧が見えるというのは大事にしてもらいたい。

(部会長)

自治会としては、どのような利用を想定しているか？

(保津町自治会)

自治会として利用は考えにくい。

環境政策の情報発信をする拠点の施設なので、亀岡市が力に入れていることを表に出すことを考えればよいと思う。

その上で、人が集まってくるように、飲食（キッチンカー）や自由に使えるスペースを考えればよいと思う。

従来からの公共施設（箱もの）にならないように、市が力に入れていることを発信する目的を持った建物にして欲しい。

(亀岡中部自治会)

自治会としての利用は難しい。

どういった利用が多いか考えると、学校教育の一環としての利用や保津川下りまでの観光客が考えられる。

駅北のホテル周辺には、観光地がないので、そういった方の利用も見込める。

物販で言えば、大河ドラマ館閉館に伴い物産店も閉店したので、利用は見込める。

私見だが、風景が好きなので、保津川下り・アユモドキ・亀岡の農村・山（トレイル）などの動画が見られるのもよいかと思う。水車が好きなので、設置してもらいたい。

風景でいえば、施設北側の生垣が川の眺望を邪魔しているので、施設の整備時に合わせて撤去してもらいたい。

(保津町自治会)

景色がいいので、額縁（景色を切り取る）のような大きな窓を作って欲しい。

そうすれば、そこで写真が撮れていいと思う。

※ 1～4を通じて

(NPO法人亀岡人と自然のネットワーク)

外壁の塗装や窓枠、ドア（ドアノブ）等どこでもいいので、整備する施設に保津川を象徴する「青（保津川ブルー）」を取り入れて欲しい。

（保津川遊船企業組合）

垣根の撤去の話があったが、建物北側の土手に直接出られるようにした方がよいと思う。

土手のスペースも活かせるように整備すれば、周辺も含めた使い方が広がると思う。

（亀岡市）

できればいいという思いはある。検討はしたいと思っている。

（NPO法人プロジェクト保津川）

週末になれば亀岡市内は多くの方がサイクリングに来られるので、サイクルスタンド等の設置があればいいと思う。

（亀岡市）

これからは、循環経済（サーキュラーエコノミー）、ごみを出さない（ごみにしない）環境政策が注目されると考えている。

環境の「環」は、つなぐ、つながるという意味もあるので、それを体現できる施設にしたいと思っている。

飲食であれば食品ロスが問題になっているので、廃棄予定の食材を活用したり、エネルギーであれば地産地消で地域内を循環させる、そしてサイクリングであれば市内をめぐるなど、「環（めぐる）」を体現できる、様々なコンセプトを持った施設にしたいと思う。

建物のコンセプトとして、これから建てる建物は壊す時のことを考えて、全てを循環させられるように、建物として表現できればと思っている。

（NPO法人亀岡子育てネットワーク）

亀岡市の取組やいいところを発信するのはいいことだと思う。

この建物をきっかけに、亀岡市民に色んなことを伝えて（発信）して欲しいと思った。

◇閉 会